

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年12月26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470102884		
法人名	社会福祉法人可部大文字会		
事業所名	グループホーム（山まゆ）フルーツハウス		
所在地	広島県広島市安佐北区大林町字根谷162番地の2 電話（082）818-6011		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470102884&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	（社福）広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成23年10月31日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

本事業所は、「寄り添うケア」を念頭に置き、個別ケアの充実を目指しています。「寄り添うケア」実現のため、大きく三つの柱をたてています。まず、一つめは、「夢をかなえるゾウプロジェクト」を昨年度に引き続き、実施しています。穏やかな暮らしの中にもその人らしい夢を持ち叶えていただくご利用者様とお一人おひとりの夢の実現に取り組んでいます。二つ目は、自立支援への取り組みです。機能レクはもちろん、日々の散歩により下肢筋力の強化を行い、1名を除き、現在もなお自力歩行が維持できており、外出、外泊も安心して行える状態にあります。そして三つ目が、地域とのつながりを大切に、様々な地域行事へ積極的に出向いたり、また本事業所で行う行事に来ていただいています。その他、各種学校の実習生を積極的に受け入れ、グループホーム内で多くの学生が学びを深めています。また、他事業所との交流も盛んになってきました。お一人おひとりにあわせた希望に添った生活を送っていただけるよう、職員が統一した目標を持った統一ケアを心掛けております。夢を叶える、笑顔、活気のあふれる山まゆへどうぞお越してください。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム（山まゆ）フルーツハウス（以下、ホーム）は、一人ひとりに寄り添い向き合いながら、できる限り利用者の思いを叶えられるよう支援されています。「歩きたい」「新幹線に乗りたい」「旅行に行きたい」などの思いの実現に向けて、まず利用者の機能維持に取り組まれています。専門職と連携しながら機能が低下しないよう積極的に支援され、日帰り旅行や泊まりの旅行にも家族と一緒に楽しむことができるようになりました。利用者の暮らしは、ホームにいても家族や地域に支えられていることを踏まえ、事業所も地域の一員として支え支えられる関係を実践されています。災害時の助け合いや地域の高校生の職場体験を受け入れながら、意欲ある次世代の子どもたちの育成にも努められています。法人から専門知識と技術を学び、家庭的で個性を尊重した支援を提供されています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲げ、毎日、朝礼、夕礼時には理念の唱和を行い、職員の意識統一を図っている。また、理念を念頭に職員相互の話合いのもとに、年間の事業方針が決められ、さらに月間目標がたてられ、実践につなげている。	朝礼・夕礼での理念唱和は、職員全員で共有し確認する場とされています。常に理念に沿った支援が介護の現場で実践されるよう取り組まれています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域からの行事参加、呼びかけには積極的に応じるとともに、地域密着型施設として、地域交流福祉フェスティバルも開催している。	日頃から事業所が地域に出かけたり、地域住民が気軽に立ち寄ったりする機会を多く作るよう心がけています。訪問日には、地域の高校生の職場体験を受け入れ、福祉施設を体験する機会として交流されていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	会議等を等して地域で求められている事などを行い、地元公民館共催の在宅高齢者介護教室、自治会主催のいきいきサロンでの講師を担っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議内では、多様な話し合いを行い、その後、フロア会議内で報告、検討するなどし、サービス向上に努めている。	運営推進会議は、系列の地域密着型サービス事業所と合同で開催し、より多くの参加と多面的な問題について話し合うよう工夫されています。会議では、地域の子育て支援に協力して欲しいとの新たな意見も寄せられました。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区担当者だけでなく、広島市担当者への問い合わせ等も積極的に行うなど、最初の情報等を得るなどしている。	行政の職員は、毎回運営推進会議に参加し、出された意見に対しての助言や情報提供があり、良好な関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>施設内研修を行ない、職員の理解を深めるよう、取り組んでいる。各部屋からは共用のバルコニーがあり、自由に出入りすることができるが、安全のため常時見守り態勢をとっている。また、利用者から出たいという意向があれば職員が同行するなど安全に配慮している。</p>	<p>ホームは建物4階にありますが、バルコニーやベランダを広くとって、外気浴や散歩ができるよう工夫されています。また、一人ひとりを見守ることを徹底させ、玄関の鍵をかけないで自由に行動できるよう取り組まれています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者は、施設外研修に積極的に参加し、各法令を学び、施設内での研修を行ない、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者、サービス提供作成者を中心に、職員のレベルに応じた研修を行なっている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所に係る面接時等、また入所後も随時、利用者様、家族様からの意向を伺い対応を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情解決に係る整備を行ない、いつでも苦情を受け付け、解決に向け、体制を整えている。また、家族の面会時には、家族が意見や相談をしやすい雰囲気づくりに心掛けている。</p>	<p>家族の思いや意見を吸いあげる仕組みとして、気づき要望書があります。出された要望は、利用者の思いと一緒に担当者会議で検討し、計画に盛りこむなど反映に心がけられています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>フロア会議を中心として意見を聞くこととし、提案については積極的に行うように指導している。また、気づきや意見を自由に記述し合う「連絡ノート」を活用し、「ハウレン・ソウ」を実行している。</p>	<p>現場職員の声は、「何でもノート」に記載され、毎月開かれるフロア会議で共有されています。記録の簡素化と情報共有の効率に向けて、記録の様式が改善されています。職員の意見が出しやすい環境を整えることにより、業務改善が図られています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>メンタルヘルスにも力を入れ、職員間の個々の思いをくみ取る様に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>介護福祉士へのスキルアップ等を積極的に支援している。今年度も介護福祉士への資格取得を目指した職員がいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>他のグループホームとの交流やや合同の行事への参加もあるなど、職員間の交流もあり、相互に情報交換を行い、サービスの質の向上を互いに目指している。</p>		
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>個々の利用者様との対話を大切にし、利用者様が何に不安を抱え、何を求めているかを常に傾聴している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族様からの要望や困り事などは、積極的に話し合いを行い、利用者様だけでなく、家族様を含めてのメンタルケア等を行うようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用者様、家族様がどのようなサービスを求められているのかを見極め、複合施設の利点を活かしながら、相談にのっている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>介護するだけの存在ではなく、人間対人間の温かい関係作り、なじみの関係を行い、利用者様も家族であると常に考えている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族様からの意見を率直に伺うとともに、常に連携し、利用者様にとって何が一番良いかを常に念頭に置いて関わっている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>一人ひとりが馴染みの人や場所との関係が途切れない様に配慮している。地域へのドライブ、近所に位置する利用者様宅までの散歩の実施などしている。また「山まゆの墓」へのお参りなど、自然の形で以前の暮らしへの継続を図っている。</p>	<p>散歩で、元気な頃から共に地域のお世話をしながら支えあって生きてきた地域の人との会話を楽しんだり、季節の花をもらわれたり、昔と変わらない関係を支援されています。また、遠方の墓参りができなくなっても、法人所有の敷地にある「山まゆの墓」に参ることによって以前の習慣を継続しておられます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、孤立しないように言葉かけや会話で誘導し、レクリエーションや日常生活で関わり合いを持っていただくようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族様の来訪、こちらからの家族様連絡など配慮を行っている。退所された利用者様、家族様の来訪もあり、相談も随時行っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族様と情報交換または、利用者様の意向を聞き把握している。利用者様本位に検討し、利用者様の尊厳を守る配慮をしている。また、年間を通して、「夢をかなえるゾウプロジェクト」を行っている。	「出かけたい」「歩きたい」「新幹線に乗りたい」など、一人ひとりの思いを叶えるために機能維持に積極的に取り組んでいます。発語が困難な入居者が、歯科医師と協力して口腔ケアに取り組んだ結果、徐々に会話や意思疎通ができるようになった事例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面接時に本人の生活歴、生活習慣、環境を聞き、把握に努めている。また、家族様に協力していただき、聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録、排泄・食事摂取量記録表、与薬、バイタルチェックなどで把握し、ケアプラン評価を行い、現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	利用者様、家族様、職員間との話し合いにより、意向を反映した介護計画を作成している。	モニタリングをもとに、ケース担当者が中心となって、利用者の思いと家族の意見を聞きながら介護計画を作成されています。必要な場合には専門職も交えてチームケアが行われています。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	期間を設定した定期的な見直し、及び状態の変化に応じて、随時の見直しを行っている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	利用者様や家族様の要望に応じ、受診時の送迎や買い物等の外出希望時、柔軟な対応をしている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	利用者様の意向や必要性に応じ、近隣の学校への参加や地域行事も積極的に行っている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	内科、歯科医師の往診体制が整っており、ご本人様が希望するかかりつけ医への受診を行っている。また、急変時の連携も行っている。	従来のかかりつけ医での受診を継続できるよう支援されています。また、協力医院は往診や夜間、緊急時にも対応するなど、医療連携体制も整えられています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師と24時間連絡体制が整っており、日常的に協力し、介護状況の報告、情報交換を行い、健康管理を支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>安心して退院ができるよう、医師や看護師との情報交換や相談を行っている。家族様との連絡等、退院後の生活に向けての連携を行えるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>指針、マニュアルを整備し、施設内研修を実施するなどし、チームケアの支援体制を整えている。</p>	<p>事業所として重度化の対応指針を掲げて、入居時にも分かりやすく説明されています。利用者が重度化した場合、家族を中心にかかりつけ医、法人も一緒になって対応や方針について話し合いチームでの支援に取り組まれています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルを作成しているとともに、初期対応の研修や施設内研修にて対応等を学んでいる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>マニュアルを作成しているとともに、広島市消防局、自治会との連携により、防災訓練を行っている。</p>	<p>事業所は過去に体験した水害の経験をふまえて、地域の地形や災害事例などの情報をもとに地域と助け合う関係づくりを積極的に行っています。夜間想定訓練や運営推進会議にも地域住民が参加して連携を図っています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねる言葉かけ、対応はしていない。また、記録等の個人情報の取り扱いは慎重に行っている。「利用者様は家族」という思いから、寄り添うケアの実践に努めている。	職員は、利用者のその日の気分を尊重し、どんな時も否定しないで、耳を傾けるよう心がけています。落ち着かない状況の時にもゆっくりと本人の選択を優先させるよう寄り添っておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員は、利用者様が自己決定したり、希望を表出しやすくする事を大切に、それを促す等の取り組みを日常的に行っている。また、よく分かるよう、納得がいくよう説明をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のペースに合わせ、職員の都合により、強制することなく、安心して過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	施設に来られる美容院との連携により、利用者様の意向を聞きながら行っている。また、パーマを希望された場合は、なじみの理美容室へ出かけられる支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様のペースに合わせ、一緒に料理の準備をしたりしている。また、後片付けの食器洗いを役割として楽しみにされている利用者様もいらっしゃる。また複合施設の利点を活かし、管理栄養士が栄養面でのサポートをしている。	割烹着をつけた利用者が、ちらし寿司の味付けや盛り付けを手伝っておられます。リクエストのメニューや郷土料理も提供されています。職員と利用者が多い会話を持つ食事時間を大切にされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	利用者様の食事摂取量を毎日チェックし，状態に応じて対応を随時行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎日、きちんと歯磨き、口腔内の手入れ、うがいをするよう、職員が見守り、確認を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自然排便への取り組みを実践し，できるかぎり、トイレにて排泄を行っていただいている。	排泄の自立が暮らしへの自信に繋がるよう積極的に取り組まれています。日頃の健康管理と食事が排泄に与える影響を考え，医師や栄養士の助言に沿った食事を提供されています。入居時オムツ使用であった入居者が自立までに改善されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	腹部マッサージ、散歩、腸動を促す食事、乳酸菌飲料の提供、下剤をしない自然排便の実現に向けて、施設全体としての予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は日曜日以外、いつでも入浴できるようにしている。心身状態により中止したり、時間をずらすなどご本人のタイミングに合わせるようにしている。また、ゆったりと安全に入浴が楽しめるように一人ずつ利用している。	一人ひとりの入浴習慣をもとに希望を優先した支援に努め，順番なども一方的に決めないよう配慮されています。職員は必ず1人付き，利用者が楽しみにしている入浴での安全を確保されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活のリズムとしてパジャマに着替え、眠れない方には、温かい飲み物を提供しながら、お話をし、夜の時間を過ごすなどその時々状況に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は、薬の目的や副作用について把握していくこととし、服薬の確認、体調の変化も記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様のレベルに応じて、充分とはいえないが、個々の利用者様に合わせた支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の散歩や地域行事への参加等、外出の機会が増えるよう努力している。また、全員参加の一泊旅行など実施している。	利用者の要望の中でも、特に多い外出について、機会あるごとに叶えるよう支援されています。日帰りや泊まりの旅行も実現させ、ホテルのコースメニュー、温泉の大浴場を堪能されました。利用者も参加したいという意欲をもって機能維持に励んでおられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様の状態により、お金のトラブル、不穏を起こすこともあるので、管理は施設が行っている。使用する時は、お一人おひとりの財布に必要な分だけ入れ渡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様の希望により、電話、手紙等、家族様への連絡を行っていただくようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関はいつも開放しており、エレベータ前の玄関ホールは、圧迫感のないようにしている。壁面には利用者様と作成した季節感のするような飾りつけをしている。常に外気を取り入れられるように窓やドアは開放してできるだけ、居心地が良くなるように配慮している。	小ぢんまりとしたリビングは、話したり、歌ったり、手伝いをしながら日中の大半を居室から出て過ごすことができ、家庭の団欒を感じる空間となっています。リビングに通じるテラスは自由に入出入りすることができ、バーベキューや花火など、家族も交えて楽しむことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者様の希望に添うよう、エレベータ前の玄関ホールを使用したり、1階地域交流スペースなどで過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	暮らしの雰囲気が継続できるように、ご本人にとって大切なものや親しんで小物、タンスなど置かれ、ご本人にとって安心できる場所を居室につくりだすようにしている。	居室入り口には、持参したのれんやタペストリーがかけられ、家庭的な雰囲気と共に、居室の間違い防止にもなっています。全居室がベランダに面しており、自由に入出入りしながら馴染んだ町並みや自然を臨むことができます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様のペースに配慮しながら、できること、できそうなことを職員が見極め、すぐに介助に入るのではなく、残存機能を維持できるようなケアを含め、見守りを行っている。歩行には歩行器など使用するなどし、歩くことへのサポート体制をとっている。手すり等も設置し、安全に生活できるようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム(山まゆ) フルーツハウス

作成日 平成 24 年 3 月 28 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	夢を叶えるプロジェクトの発展継続。	自立支援型の夢へと継続発展する。	継続となる夢を叶えるプロジェクトは、現状の生活から生きがいを持てるようなプロジェクトへ変更し、夢＝目標、日々の生活・努力＝手段・方法となるよう働きかけ、ADLの維持・向上へ繋げて行く。	8か月
2	48	「日常」と「非日常」における「日常」の質の向上を図る。	利用者様の生きがいを発展して頂く。	非日常は現在活性化しているが、日常との落差がある。日常生活も非日常同様、もっと彩りと華を持って頂き、継続して行える趣味・活動を発展させていく。	12か月
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。